

作事組だより

第 130号 (2025年12月発行)
一般社団法人 京町家作事組
〒604-8241
京都市中京区三条通新町西入釜座町32
Tel 075-252-0392 Fax 075-252-2392
E-mail: kyomachiya@sakujigumi.com
事務局開局時間: (月)9:30-12:30
(火・木・金)9:30-16:30(祝祭日を除く)



【地域連携事業 京町家再生プロジェクト進行報告】

5月中旬より、お施主様である大阪の不動産会社カンパニートラスト株式会社様のお声かけにより、作事組・京都美術工芸大学建築学部・京都移住計画・京都市景観まちづくりセンターとの地域連携事業「京町家再生プロジェクト～人を想い、暮らしをつくる～」がスタートしました(写真1)。

この事業は、京都美術工芸大学の建築学部の学生さんに、伝統構法で京町家を改修することについて、ソフト面ハード面から1年間かけて学習するプログラムです。

作事組からは、現場の設計担当として末川協建築設計事務所、施工担当として高田工務店が現場見学、座学の講義、設計の講評などを担当しています。

プロジェクト第1回目は、京美大の京都東山キャンパスにて、オリエンテーションと末川による京町家についての講義受講、第2回には、第1回の終わりに出された課題・京町家再生における「ペルソナ：そこに住むことになる人物像(年齢・職業・世帯年収・家族構成・性格・信条・趣味など)」とその要望に応じる「コンセプト」について、学生さんたちが一人ずつ発表し、末川による講評が行われました。

第3回目には、今回の対象物件の現場と他の作事組案件の京町家の再生現場を視察するフィールドワークを高田工務店の案内で行いました。

第4回目には京都市・まちセン・京都移住計画様によるソフト面からの講義を受講し、第5回目には学生さんたちが設計提案の図面と模型を制作して発表、末川が講評しました。学生さんたちは京町家の住み手となる「ペルソナ」をブラッシュアップし、ペルソナに応じた京町家における課題・目的とそれらの解決手法ならびに得られる成果を一生懸命に発表していました。各々が模型制作を通して、京町家の基本となる伝統軸組構造をしっかりと理解することを念頭に取り組んでおられました。

そして、10月の第5回目には、改修の進むプロジェクト対象現場を改めて見学いただきました。大工さんたちが、実際に車知栓(しゃちせん：長方形の薄い木板)を用いた梁の取付けを目の前でデモンストレーションしてくださいました(写真2)。車知栓が取り付けられ、梁が無事に収まった時には学生さんたちから自然と拍手が沸きおこりました。

釘や金物を使わず、木材を継手・仕口により接合して建てる京町家。木には金属と違ってねばりがあり、振動を受けるたびに車知栓を差し込んだ接続部は締め、耐震効果が得られます。あらかじめ加工場で梁用に加工してきた仕口の、その繊細な車知栓は、職人が現場で丁寧に仕込みます(写真3)。その手元に、改めて職人さんへの敬意が高まりました。

今後の予定としては、第7回が2月に土間たたき・ベンガラ塗りのワークショップを予定しています。そして3月末から4月初めには 学生さんの完成模型と完成物件の披露が待っています。各専門家からの学びがどのような模型につながるのでしょうか？ 学生さんの成長ぶりが楽しみです。(作事組事務局 阿部景子)



写真1：集合写真



写真2：梁の架け替え



写真3：車知栓の微調整

【シリーズ：新・町家構造事始 第4回】

連載の初回ではイントロダクション、2回目が町家の構造性能評価の今日に至る流れ、3回目では2010年に出したブックレットの概要を書きました。当初の筋書きでは4回目はwallstatそのものの紹介です。

2023年の7月に初めて京大の生存圏にwallstatの開発者である中川貴文先生を訪ねました。例によってボール紙と竹串のフレームの模型をお見せして、町家の三角柱形のバネの変形性能について説明した上、wallstatでその性能が評価できる見込みがあるか率直に尋ねました。先生は注意深く話を聞いてくれました。町家や伝統構法はご専門外であるにもかかわらず、瞬時にそのメカニクスを理解された上で、「おそらくシミュレーションで、挙動は再現できるでしょう」と即答いただきました。ブックレットを出してから13年間、初めて工学的なサポートがありうることに、間近な目標が見えた瞬間でした。

実のところ、wallstatのしくみの紹介は筆者の手に余ります。中川先生に解説をお願いするつもりが、現在海外におられますので機会を改めたいと思います。

とりあえず概要と関連のHPの紹介をさせていただきます。

○木造住宅倒壊解析ソフトウェアwallstat (図1)

<https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/~nakagawa/>

○『耐震シミュレーションwallstatガイド』

鈴木強 著・中川貴文 監修、学芸出版社

<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761532574/>

○建築学会賞の講評

https://www.aij.or.jp/images/prize/2024/pdf/3_2award_001.pdf

来年初めに「wallstatによる京町家の地震時の構造性能評価の報告」の話題提供の会を予定しています（あえて耐震という言葉は使いません）。当初から取り組みの情報共有をしていました京都市建築行政職員の方々やこのニューズレターで関心を持っていただいた景観まちづくりセンターの職員の方々などを対象にしています。

内容としては、

○2010年のブックレット「町家構造事始め」での仮説が概ね検証可能に

- ・大正以前型の町家は変形性能で地震に備える
- ・立体的な三角柱の軸組によるバネ＝地震に対して有効なのは妻側の土壁

○町家の地震に対する構造性能が可視化

<大正以前型>

- ・阪神淡路地震の2倍超の加速度に耐える→状態の健全化が改修の必要十分条件
- ・桁行の壁は地震にはまったく不要（但しクリープや耐風圧は別）
- ・極論すれば土壁なしでも三角柱の軸組は自立

<昭和初期型>

- ・間取り、規模によるばらつきあり
- ・新築時に有効な性能向上策はあり→但し改修時での改変には不向き
- ・1, 2階連動の耐震要素が性能向上に有効

○課題

- ・補う必要がある実験データなど

などを予定しています。

次回のたよりでその内容を報告するようにします。上手く話題が共有できれば、広く門戸を開けて周知を行いたいと企んでいます。

倒壊の状況が動画の映像で見られる点がともかくwallstatの大きな特徴であり利点です。

「お箸みたいな細い材木組んで、間にちょろちょろ土塗って、なんでこれが持つのか分からん」。ある

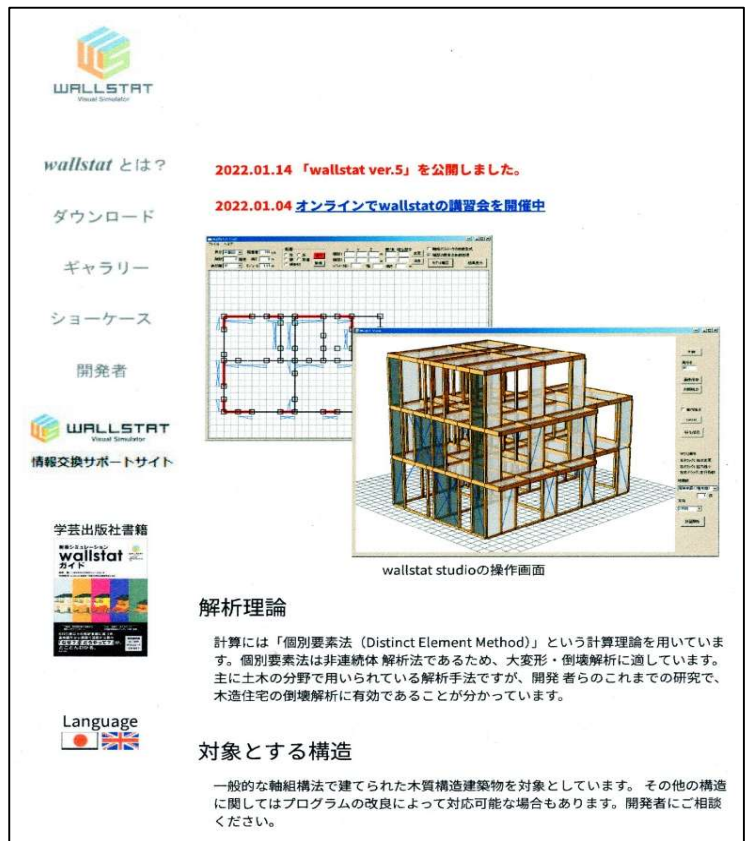


図1 wallstat木造住宅 倒壊解析ソフトウェアHPより

棟梁がいみじくも語った京町家。その「なんで」を編み出した職方の知恵や技量がようやく検証できるかと考えています。繰り返しになりますが、町家や鉦を作った創造的な大工たちの時代に改めて思いを寄せます。

(京町家作事組設計担当 末川 協)

【改修15周年記念展示 釜座町町家改修の記録 イベント報告】

7/1 (火)～31 (木) (前祭巡行の7/17 (木)、後祭期間7/21 (月)～7/24 (木)は除く) の一か月間、釜座町町家の改修を当時の映像と展示で振り返るイベントをさせていただきました。釜座町町家は、京町家がニューヨークに本部があるワールドモノメントファンドの危機遺産に認定されて初めての再生プロジェクトです。今回の企画は、JR東海「そうだ 京都、行こう。」京町家ラウンジ企画の共催のため、参加対象者はJR東海EXサービス会員およびご同伴者様とさせていただきました。釜座町町家の他に、作事組が改修に関わった他の3軒の町家でも京町家ラウンジ企画が行われました。

作事組では、来場者に釜座町町家の説明をし、離れでは釜座町町家の改修について当時の映像と展示を観ていただきました。ミセノマとダイドコではサントリー・福寿園さんのご協力で石臼抹茶体験を、オクノマでは南條工房さんの鉦や風鈴の展示をし、訪れた方には涼しいお座敷でひと休みいただき、京町家の風情を感じてもらい、好評を得ることができました。

7月初めから連日35℃以上の真夏日で、7/5の予言もあり、最初の週は出足が鈍かったので心配しました。しかし、祇園祭に向けてだんだんと来場者が増え、祇園祭期間以外で合計301人のお客様に来場いただきました。町家に初めて入った方も多く、暑いなか興味深く釜座町町家の説明を聞いてくださる方が大半でした。来場者は府外の方が半分以上でしたが、初めての京町家に驚かれ、感動している言葉を伺うと、建築で京都を京都たらしめているのは、寺社仏閣だけではなく、町衆の文化である京町家なのだろうと改めて感じ入りました。

近年、まちなかの地価が上昇を続けているなか、近隣でも解体される町家をしばしば目にし、田の字地区の京町家の存続がかなり厳しくなっていることを痛感します。そんな状況下でも町家を維持されている釜座町町内会のみなさまへの尊敬の念が一層高まったイベントとなりました。

会期中通して、JR東海さん、サントリー・福寿園さんのスタッフさんたちと協力しながら、和気あいあいとした良い雰囲気でお客様をお迎えできました。個人的に今振り返っても楽しいイベントでした。開催を許可くださった長谷川会長はじめご町内のみなさま、ご協力くださった関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

(京町家作事組事務局 阿部景子)



離れ：映像上映とパネル展示の様子



ミセノマ：石臼抹茶体験の様子



オクノマ：鉦・風鈴・お香等の展示

【祇園祭後祭イベント報告】

祇園祭後祭期間の7/21～23（日～火）に合わせて、今年も恒例となった作事組事務局のオープン町家を行いました。去年に引き続き、解体・改修される予定の町家から引き揚げてきた古道具市も同時開催しました。

去年と同じく、3日間とも日中は36℃超えの猛暑でしたが、夕方に差し掛かると人出も増えて、最終日にはヨーヨー釣り・冷たい飲み物ともに多くのお客様に町家で楽しんでいただきました。

今年は、飲み物をお買い上げいただいたお客様には、作事組会員の家庭から出たおもちゃやスペインの子供服の「ご自由にどうぞ」コーナーを設けたのですが、これが思いのほか好評で、子供服は30着ほど、おもちゃも2/3ほどなくなりました。子供たちが自分が使っていたおもちゃや洋服についてお客様に説明しました。お客様は「これ無料でいいんですか？」とか「大切に使いますね」という言葉とともに喜んでもらっていただきました。接客する子供たちもうれしく満足そうで、その成長を感じられる貴重な機会になりました。ありがとうございました。

（京町家作事組事務局 阿部景子）



【釜座町地蔵盆・斧屋法要 開催報告】

8/23(土)は地蔵盆が釜座町町家で行われました。まちなかでは子供が少なくなっていまい、少し寂しくもありますが、ご町内の方々のお顔を拝見できる大切な機会でもあります。今年はお隣のたまやさんでの会食にも参加させていただきました。賑やかな一時を過ごせましたことに感謝いたします。来年もまた皆さまと一堂に会えますように。

（京町家作事組理事・設計担当 井澤弘隆）

10/18(土)には裏寺町にあるお寺さんで、町家を釜座町に寄付してくださった斧屋一家の法要がありました。町内会長さんのご尽力で、今年は参加者も多く、にぎやかな楽しい会になりました。斧屋さんご一家にはいつも事務局として使わせていただいている感謝の気持ちで、読経とお参りをさせていただきました。

（京町家作事組事務局 阿部景子）



【新入社員紹介】



有限会社ケーアールカワハラ

建築板金一式

父が創業した伏見の建築板金屋に18歳で入り、27年目になります。現在は、町家を含めた一般の住宅や社寺の屋根や樋の他、神具屋で販売される小社（こやしろ）の屋根のお仕事もいただいております（写真下）。作事組に入会したきっかけは、もっと銅板を使った仕事をやりたいという気持ちからです。

屋根や樋の仕事は、まずは材料の魅力があります。銅はその素材が美しく、形が整っていれば経年変化してもかっこが良いです。小社はサイズは小さいですが、すり傷や手あかをつけない緻密な手仕事を求められます。その分、感覚を研ぎ澄ますので、

技術の維持に有効です。

屋根や樋は、まずは水をもらさない基本の施工の上に、美観を意識した仕上げをしています。施工の基本として、近年は降水量が多くなっているため、樋受けを細かく打つ工夫をしています。美観の部分は、お任せをいただくとモチベーションが上がります。

板金の仕事は、自由度が高く、収まりを決められる範囲が広いところが魅力です。若い頃から、初回現場訪問の際に、最初に頭に浮かんだ良いイメージを大切にしてきました。それを純粋にどれだけ叶えられるかを考えて仕事してきました。今はその考えも身についてきて、感じたものを作れるようになってきた気がします。仕事を依頼してくださるお施主さんのこだわりにお応えし、喜んでもらえることが何よりの喜びです。

